

# クラスメートとの ディスカッションが気付かせてくれた 「夢への第一歩」

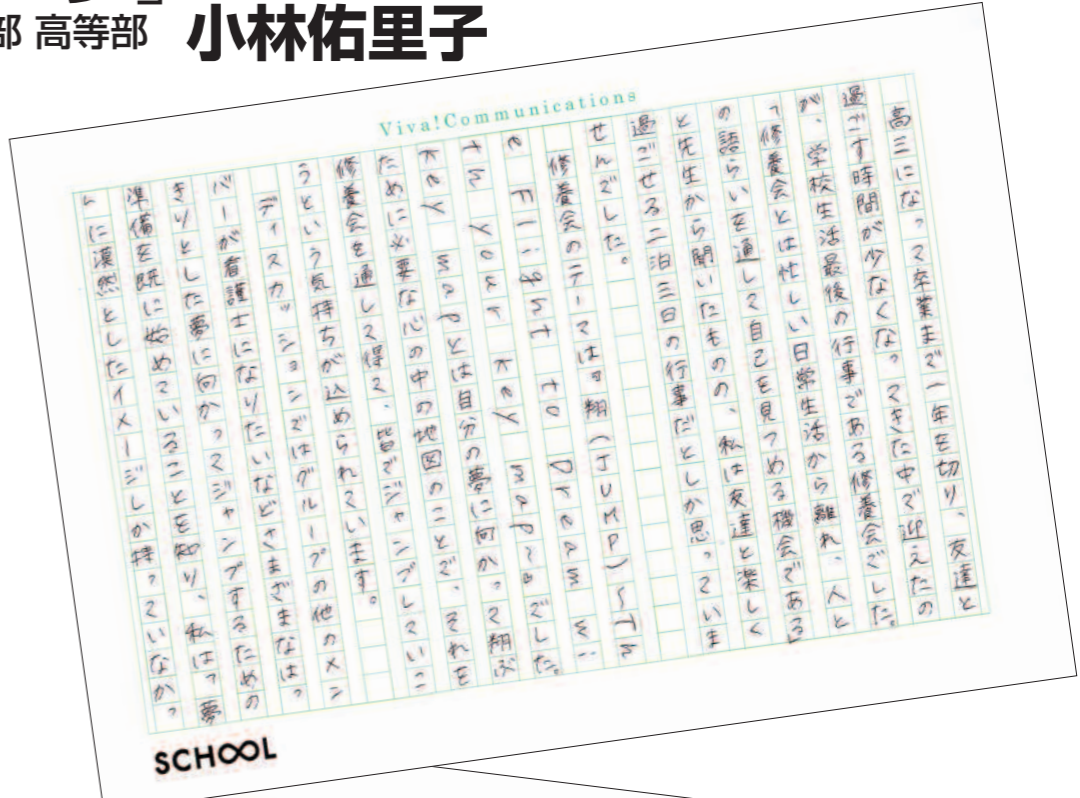
東洋英和女学院中学部 高等部 小林佑里子



小林佑里子さん

「夢」を通して自己を見つめる機会を卒業を控えた高3生に提供すべく、5月に天城高原で実施されました。

ディスカッションの中で、「夢への準備を語るクラスメートの姿にあせりを感じながらも、思い切つて「自分の夢がよく分からない」と率直に語った小林さん。それを真剣に聞いてくれて、真摯なアドバイスをくれた仲間たち。何度もこみ上げてくる感激の涙をこらえながらも、この瞬間こそが、広い視野を持つて、いろんな人々との関わりを持つことで、たくさんのお話を吸収しているということに他ならない、そしてこれこそ6年間、東洋英和で学んできた「人と関わりをもつことの大切さ」だ、



第9回は、東京都港区・東洋英和女学院・小林佑里子さんが、5月に参加した「高三修養会」の泊3日研修でのクラスメートとのディスカッションの中で再認識した、「人と関わりを持つことの大切さ」について語ってくれます。

今年の「高三修養会」研修は、「日常生活から離れて、ディスカッション」



東洋英和女学院(東京都港区)



天城高原での「高三修養会」に出席したクラスメートたちと。テーマは、「翔(JUMP)~The Flight to Dream with your key map~」。皆とともに過ごした3日間で、6年間の東洋英和での学びを総括し、その先に続く日々に向けての心の地図を描きました。

と再確認しました。人との関わりを通じて、かけがえのないものをつつと積み上げていくことが、夢の実現への道筋であることにはつきりと気付きました。

小林さんにとっての「修養会」は、東洋英和での6年間の学びを、将来の夢の実現への確かな糧としてより明確に意識することができた、忘れたくない3日間になりました。それはまさに、卒業を前にした小林さんが、「夢へのジャンプ」への準備を整えた瞬間だったのかもしれない。

受験を控えた高3の5月という時期にあえて行なわれる「高三修養会」。まさに小林さんが体験したように、クラスメートとのディスカッションの中で東洋英和での6年間の学びを総括し、それを将来への糧として再認識する、極めて重要な意味を見出すことができます。最初は参加し乗り気でない生徒もいるのですが、最終日には皆が感激の涙を流しながら参加できた喜びを語るそうです。また、友達と過ごす時間も少なくなつてくるこの時期での2泊3日の共同生活は、クラスメートとの絆を確かめ、更に深めるという意味において、クラスメート同士の将来にわたる絆の第一歩ともいえる貴重な時間ではないでしょうか。



ディスカッション中の一コマ。皆の明るくも真剣な姿勢に刺激を受け、自分を改めて見つめ直す大きなきっかけをもらいました。



英和で大切な友達が出来ました。多くのものを学び、大切な思い出を作りました。残された時間はもう長くありませんが、一瞬一瞬を大切に皆と過ごしていきたいと思ひます。本当に私は英和生であることが何よりの幸せです。



2泊3日の「共同生活」と密度の濃いディスカッションで、すっかり絆が深まりました。



今年の企画、クラスで作った「オリジナルTシャツ」を着ています。

